

**消費税 増税をチャンスに、その後のリスク**

消費税の値上げ、民主党、自民党、公明党で、10%にすることが合意されたようです。この消費税率、8%、10%と段階的に上げられるとか。当然、駆け込み需要が起きるでしょうから、企業の業績も間違いなく上向くことでしょう。近年では経験のないくらいの経済成長率を記録するかもしれません。ただ、ここで考えておかなければいけないのは、その後の需要の停滞です。

エコポイントを導入したときは、飛ぶように売れた家庭電化製品、それが段階的に終了、2011年3月完全終了したのでした。その後の家電販売店、家電メーカー、ぱったりと業績が悪くなってしまいました。

このように、後に起きる反動が非常に怖いといわざるを得ません。企業経営としては、消費税率引き上げ前の駆け込み需要で得た利益を、いかに過去に残せるかが課題ですね。しかも現金で、です。したがって、内部留保の差が、その後の経営に大きな影響を及ぼすでしょう。

利益が出ると、税金を支払いたくないという経営者は多いようです。しかし、税金を支払わないと、現金は貯まらないのです。お金を使わない節税というのは、ほとんどありません。いかに現金を手元においておけるかが、次の需要停滞時期に耐えられるかどうかになると思うのです。

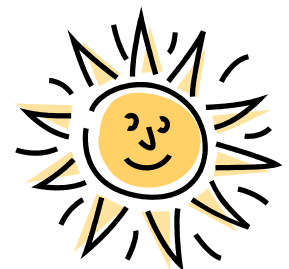
話しは変わりますが、中小企業金融円滑化法が来年3月末日で終了します。この法律による資金繰り支援で、企業から銀行への支払い遅延は、26兆円といわれています。もし、これが終了すれば、金融機関との交渉を含め、いよいよ本格的な経営者の実力を問われることでしょう。また、危惧しておかなければならないのは、

いままで借り入れをしていた金融機関の破綻です。特に危ないといわれているのが、信用組合、第2地銀ですね。メインバンクを失い、取り立ては厳しくなる。ここで生き残れる経営者かどうか問われる時がきています。

そこで、今回の消費税率の引き上げです。ここで、確実に業績が上昇する企業は多いはず。その利益を最大限に実現して、債務超過、赤字体質からの脱却ができれば、金融機関との交渉もスムーズにできる可能性は高いのです。ぜひ、経費削減、利益を生み出せる強い経営資源の確認、人材の育成と体制作りなど、経営の原点の確認を行ってください。

この時代、大波が来ます。この波を利用して、チャンスにするのか、リスクにするのかは、経営者の判断次第です。1994年、アメリカのクリントン大統領の来日をきっかけに起きた金融ビッグバンが、もう一度起こるといわれています。そこに、日本の消費税率引き上げ、さらにはTPP。このようなリスク要因が多数発生する時こそ、経営者の能力が問われます。リスクに対する感性、調査、分析、そして対策のできることで、できないことをしっかりと見極め、早目の対応によって会社を守るべきだと思います。

シニアリスクコンサルタント® 浦嶋繁樹



# 時流を読む

リスクに対する感性が高まれば、自ずと時代の「先」を読む力が備わってきます。最新ニュースをリスクマネジメントの視点で分析し、今後の展開や社会への影響を予想してみましょう。

## 中小の再生支援急ぐ 不良債権化の恐れ 地銀に26兆円

2013年3月、中小企業金融円滑化法が終了する。同法では、企業の資金繰りを支援するために財務などに懸念のある場合でも正常債権に区分できるが、同法が終了すると、こうした「不良債権予備軍」の一部は不良債権となり、銀行経営を圧迫しかねない。「不良債権予備軍」は2012年3月期に地方銀行全体で26兆円強に上る。前期末では貸し出しの14.4%を占める。そのため政府や地銀は不良債権化の懸念がある中小企業の再生支援を急ぐ。

横浜銀行など神奈川県内の15の金融機関は昨年末、官民共同のファンドを設立、技術力を持ちながら業績不振の企業に出資するなど10社程度の支援を予定している。香川銀行も3月につくったファンドを通じて経営に助言したり、債権を買い取るなど円滑な企業再生を目指す。中国銀行や西京銀行もファンドを設け、官民一体で運営する方針だ。

政府も再生ファンドがない地銀に設立を促すほか、企業再生支援機構や中小企業再生支援協議会との連携体制を全国的に整える。

## 「張り付ける照明」量産 有機EL コスト1/10 三菱ケミHDとパイオニア

次世代照明「有機EL(エレクトロ・ルミネッセンス)照明」。発光ダイオード(LED)より薄型にでき、広範囲を照らせる特徴がある。天井や壁に貼り付けて使えるため、壁全体が光る照明や、場所をとらない店舗の看板照明など、従来難しかった幅広い用途に応用が可能だ。

生産コストが高いことが欠点だが、安価に量産できる手法が確立すれば、一気に普及する可能性がある。三菱ケミカルとパイオニアは共同で量産に取り組み、今回、新たな技術を開発。約1年かけて技術を検証し、現在の1/10以下のコストを目指す。テレビやスマートフォン向けの有機ELはサムスン電子など韓国勢が商品化で先行している一方、照明分野では総じて日本勢が優位にある。富士経済によると有機EL照明の国内市場は11年に1億7000万円、12年も11億円にとどまる見通しだが、20年には1085億に拡大すると予測している。

現在、発光ダイオード(LED)の市場が急拡大しているが、長寿命の裏返しで数年後には、需要が頭打ちになる可能性もある。照明器具メーカーとしては新たな用途開発が重要。その切り札として有機ELに注目が集まる。

## 植物工場でブドウ生産 FT山梨 ワイン用、収穫6倍に

洋菓子製造販売のFT山梨は2014年度から植物工場でワイン用ブドウの生産を始める。東京農工大学が開発した収穫量を6倍に増やす栽培法を導入。人為的に1年で四季を2回めぐらせて収穫量を増やす。天候リスクに左右されない安定生産をめざす。

農工大の栽培法では早春、春、夏、秋、晩秋、冬に対応する6種類の部屋を用意。部屋を移動させながら二酸化窒素の濃度や光量を調整して光合成を活発にして成長を促す。年2回収穫できるほか、実の数も増やせる。この栽培法を海外にも売り込む考えだ。

本コーナーは、(株)日本アルマック/日本リスクマネジメント・プロフェッショナル協会共催セミナー「全国リスクマネジメント研究会」の内容を編集したもので、日経新聞の記事によるものです。セミナーの概要、参加申込方法等については、お気軽にお問い合わせください。

### <発行>

日本リスクマネジメント・プロフェッショナル協会

〒101-0038

東京都千代田区神田美倉町10共同ビル2F 27号

(株)日本アルマック内

TEL:03-5297-1242 FAX:03-5297-1244

URL: <http://www.almac.co.jp>

### <製作>

株式会社日本アルマック

〒101-0038

東京都千代田区神田美倉町10共同ビル2F 27号

TEL:03-5297-1241 FAX:03-5297-1244

URL: <http://www.almac.co.jp>

※ご意見・ご要望は上記までお寄せください。